

01

古代東北始まりの地 郡山遺跡

今から1300~1400年前。郡山に官衙（かんが）が作られました。官衙とは**今でいう役所**のこと。官衙としては多賀城よりも歴史が古く、政治・軍事・文化の中心として**古代東北の始まりの地**として歴史に刻まれます。

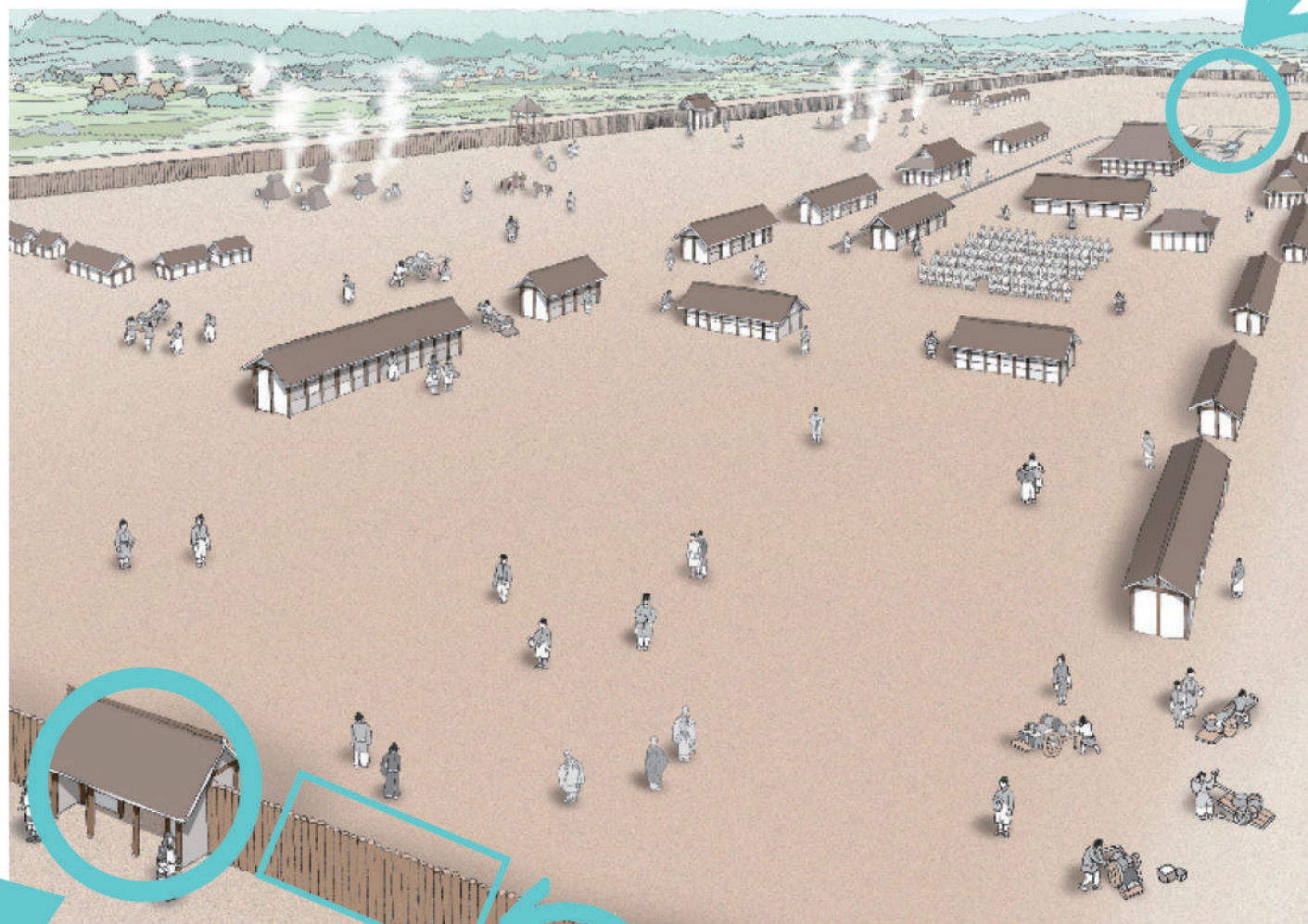
陸奥国（むつのくに）を治める役割を担い、天皇を中心とした国づくりの始まりの様子を教えてください。日本の歴史を語る上で重要な遺跡です！



郡山遺跡で出土した「畿内産土師器」
当時の都の役人が使っていたものが郡山でも発見！
→都とのつながり

知りたい!郡山いせき5つのこと

—約1350年前の郡山官衙のイメージ—



02

地方では日本唯一の 石組池

北側には石で組まれた池（石組池）が発見されました。この石組池では、蝦夷（えみし）が**天皇に従う儀式**を行ったり、**饗宴（きょうえん：もてなし）**をうけたと考えられています。

こうした石組池の存在は、当時の都である飛鳥京（奈良県）のまわりで確認されていますが、地方で発見されたのは**ここだけ!!**当時の日本にとって、郡山遺跡がいかに重要だったかを示しています。



03

正面に築かれた門 柱の太さ50cm!

南側には入口となる門がありました。発見された柱は3本。なんとその大きさは**直径50cm!!**大人の男性がぎりぎり抱きかかえられるくらいの柱の大きさです。



04

四方を囲った柵 一周の長さ1712m!

官衙を囲むように、直径約20~30cmの木材が列をなして柵を形作っていたことが分かりました。これは**天皇支配地を示す境界**を表しています。一辺の長さは**428m**。全辺合わせると**1712m**のこの列を**材木列**と呼びます。木材は、地中部分に1m以上の深さで埋まっており、全部でおよそ**6000本**ほどの木材が使われていたと考えられます。



05

どうして遺跡が発見された?

昭和50年（1970年）中頃までは田んぼや畑が多かったこの地域。耕作の際には瓦（右下）がたくさん見つかっており、100年ほど前から遺跡であることは知られていました。建物が建てられるようになり、調査が始まったことで、**この場所が官衙であること**が分かってきました。

